

子ども教育学部

Faculty of Childhood Education

講師

明比 宏樹 (あけび ひろき)

<https://researchmap.jp/hiroki-7328>



講義紹介

「初等国語科教育法」

本講義では、小学校国語科教育の理論的基盤と実践的指導法について体系的に学びます。学習指導要領に基づき、国語科の目標や内容構成を理解するとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における指導の在り方について検討します。あわせて、教材研究や授業設計、学習評価の方法について具体的事例をもとに理解を深め、模擬授業の実施・参観や協議を通して、子どもの言語活動の特質を踏まえた指導の在り方を多面的に考察し、理論と実践を往還しながら実践的力量的基礎を養うことを目指します。

その他の担当科目：「初等国語」「指導案実践研究」「教育概論」「ICT活用の理論と実践」など



大学の魅力

本学では、理論と実践を往還する体系的な学びが用意されています。学習指導要領に基づいた教科教育法や教育原理を基礎から学ぶとともに、模擬授業や演習を通して、授業づくりや学級経営に必要な実践的指導力を身に付けることができます。また、国語科や算数科をはじめとする各教科の指導法に加え、特別支援教育や生徒指導、教育相談など、多様な子どもに対応する力を養う科目が充実している点も特徴です。附属施設や地域の学校との連携を生かした実習・体験的学修を通して、子ども理解を深めながら、現場に即した実践力を培うことができます。少人数制によるきめ細かな指導のもとで、教職への意欲や専門性を高め、学校現場で即戦力となる教師の育成を目指している点が本学の大きな魅力です。

受験生へのメッセージ

教職は、子どもの「できた！」「わかった！」という瞬間に立ち会うことのできる、やりがいのある仕事です。しかし、子どもと向き合う日々は、決して教師の思い通りに進むことばかりではありません。日々の試行錯誤を通して、思いがけない子どもの姿や言葉に心を動かされ、教師として「公教育」の意味そのものを問い直す瞬間が何度も訪れます。教師とは、「壇上の賢者」ではなく、「寄り添う案内人」として、常に子どもの姿勢から学び続けるべき存在でもあります。本学で、授業づくりや子ども理解について基礎から実践的に学ぶことを通して、「このような教師になりたい」という自己の教師像を明確にしていってください。教育に関心を持ち、子どもの成長を支えたいと願うみなさんの挑戦を全力で応援します。

明比 宏樹

あけび ひろき

明比 宏樹 Hiroki Akebi

子ども教育学部 子ども教育学科 講師

学歴・学位

平成 29 年 3 月 日本体育大学体育学部健康学科 卒業

平成 29 年 3 月 明星大学教育学部教育学科（通信教育課程） 卒業

平成 31 年 3 月 早稲田大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 修了 教職修士（専門職）

主要職歴

平成 31 年 4 月～令和 6 年 3 月 愛媛県今治市立常盤小学校 教諭

令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月 愛媛県今治市立伯方小学校 教諭

令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月 立命館大学産業社会学部現代社会学科子ども社会専攻初等教職課程 助手

令和 8 年 4 月～現在に至る 広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科 講師

専門分野

教育工学、教育方法学、国語科教育学

主な担当科目

初等国語、初等国語科教育法、指導案実践研究、ICT 活用の理論と実践

教育概論、メディアと人間文化、文章表現法

研究テーマ

- ・インストラクショナルデザイン理論を基盤とした授業研究
- ・「再生刺激法（子どもの内面把握）」を活用した授業改善・教師の力量形成
- ・教師の教育的鑑識眼の洗練・継承を支援するプログラム開発と実践

ひとこと

本研究室では、教育工学・教育方法学および教育心理学の理論的枠組みに基づく授業研究（授業設計—授業実施—授業省察）に取り組みます。主として国語科を中心に扱いますが、他教科の授業実践を研究対象とすることも可能とし、理論と実践を往還しながら教科横断的に適用可能な授業研究法を用いた指導を行っています。こうした研究活動を通して、授業を構造的・多角的に捉えるとともに、量的・質的研究法に基づく省察を通じて、子どもの学習過程や手立ての効果を検証しながら、実践をよりよく改善していくことのできる力量の育成を目指します。

その他（所属学会・団体）

日本学校教育学会、日本基礎教育学会、全国大学国語教育学会、日本国語教育学会、早稲田大学国語教育学会、日本教育実践学会、日本教師学会、日本教育工学会、初等教育カリキュラム学会、中国四国教育学会、日本学級力向上研究会

研究活動

受賞歴

- 1) 2021年12月 2021（令和3）年度 教育研究助成事業 教育研究実践論文（個人部門）優秀賞
- 2) 2022年3月 愛媛県教育研究協議会 第54回教育研究論文 入賞
- 3) 2023年3月 愛媛県教育研究協議会 第55回教育研究論文 入賞
- 4) 2024年3月 愛媛県教育研究協議会 第56回教育研究論文 入賞
- 5) 2025年3月 愛媛県教育研究協議会 第57回教育研究論文 入賞

学術論文

- 1) 明比宏樹（2026）「主体的・創造的に読み、自らの考えを明確に表現する力を育む指導過程の検討 -ノンフィクション作品『みずさの旅—みんなちがって、みんないい』における単元開発とその実践を通して-」早稲田大学国語教育研究, 46, pp.73-84.
- 2) 明比宏樹（2026）「子どものリフレクションと教師の授業改善に関する実践研究 -『再生刺激法 ver. 4』を活用した授業省察を通して-」早稲田大学教職大学院紀要, 18, pp.13-25.
- 3) 明比宏樹（2026）「学級における人間関係および友達に関する認識についての一考察 -相互評価・相互批評に基づく児童による児童認知と教師による児童認知の視点から-」中国四国教育学会教育学研究紀要, 71, pp.365-370.
- 4) 明比宏樹（2025）「児童の読書に対する興味・関心を高める指導実践 -ビブリオバトルをベースとした『ポスターセッション型書評合戦』を通して-」日本基礎教育学会紀要, 30, pp.13-20.
- 5) 明比宏樹（2025）「伝えたいことを明確にし、筋道の通った文章を書く力を育む授業実践 -児童の心に内在する抵抗感と困り感に着目して-」早稲田大学教職大学院紀要, 17, pp.15-28.
- 6) 明比宏樹（2025）「テスト後における学習内容のさらなる定着を図るための指導実践 -セルフレクチャーとしての機能を包含した『訂正ノート』の在り方に着目して-」中国四国教育学会教育学研究紀要, 70, pp.436-441.
- 7) 明比宏樹（2024）「『ICT×学級会』思考ツールを用いた話し合い活動の可能性 -「意見の見える化」と「視点の焦点化」を通じたマークの原理からの脱却に着目して-」日本基礎教育学会紀要, 29, pp.191-196.
- 8) 明比宏樹（2024）「多様な意見を生かした作品の練り上げ・練り合いの過程に至る学習評価の介在 -主体

的・対話的な相互評価活動を通じた自己評価力の向上を目指して-」早稲田大学国語教育研究, 44, pp.99-110.

9) 明比宏樹 (2024) 「児童の学習習慣を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を育む指導実践 -自主学习を実現するための基礎的段階における指導に着目して-」早稲田大学教職大学院紀要, 16, pp.15-28.

10) 渡邊和志・吉崎静夫・明比宏樹 (2023) 「1人1台端末を活用した子どものリフレクション -子どもの内面把握の方法開発とその活用-」大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 40, pp.109-124.

11) 明比宏樹 (2023) 「導き出した問いを、主体的・協働的に解決する力を育む実践研究 -PBL における単元モデルを基盤とした、『地域の防災について話し合おう』と『パンフレットで知らせよう』の授業を通して-」早稲田大学国語教育研究, 43, pp.102-113.

12) 明比宏樹 (2023) 「子どもたちが主体的に参画する学級経営の実践研究 -『学級力向上プロジェクト』を基軸とした協働的な問題解決学習を通して-」早稲田大学教職大学院紀要, 15, pp.1-15.

13) 明比宏樹 (2022) 「明確な言語意識を持って伝え合う力を高める実践研究 -五つの学習ステップに沿った『地元大好き、町じまん大会』と『ひみつを調べて発表しよう』の交流活動を通して-」早稲田大学国語教育研究, 42, pp.113-124.

14) 明比宏樹 (2022) 「情報読解力を向上させる指導の在り方 -四つのプロセスに沿った『情報調査ノート』の実践と『世界遺産白神山地からの提言』における意見文の作成を通して-」早稲田大学教職大学院紀要, 14, pp.57-71.

15) 明比宏樹 (2021) 「児童の学習意欲を向上・持続させる指導の在り方 -国語科における『ARCS 動機づけモデル』の支援方略と『学びの教科書づくり』を取り入れた授業実践-」早稲田大学教職大学院紀要, 13, pp.15-28.

学会発表

1) 明比宏樹・平井里奈 (2026) 「授業遂行における意思決定プロセスの分析 -教師の授業認知に基づく事例研究-」日本学校教育学会・第40回研究大会(富山国際大学), 2026年7月25日.

2) 明比宏樹 (2026) 「探究的な読みを促す授業設計に関する実践研究 -文学教材『大造じいさんとがん』における新三読法を用いた指導過程に着目して-」全国大学国語教育学会・第150回新大阪吹田大会(大和大学), 2026年5月30日.

3) 明比宏樹 (2026) 「地域の詩歌文集における子どもたちの協働的作品選考活動の実践研究 -『発信』と『受信』とをつなぐ学びのデザイン-」日本基礎教育学会・令和7年度春の研究大会(京都女子大学), 2026年3月29日.

4) 明比宏樹 (2025) 「児童同士による相互評価・相互批評に関する研究」中国四国教育学会・第77回大会(高知工科大学), 2025年12月7日.

5) 明比宏樹 (2025) 「伝えたいことを明確にし、筋道の通った文章を書く力を育む実践研究 -児童の心に内在する抵抗感と困り感に着目して-」早稲田大学国語教育学会・2025年度秋季例会(早稲田大学), 2025年11月15日.

6) 明比宏樹 (2025) 「小学校国語科において漫画を主教材として取り上げた授業実践に関する一考察 -カテゴリー化した『おもしろさの要素』への着目と『おもしろさの捉え方』についての分析を通して-」第88回日本国語教育学会全国大会(筑波大学附属小学校), 2025年8月9日.

7) 明比宏樹 (2025) 「小学校国語科における絵本を教材とした単元開発 -『アクティブ・ブック・ダイアログ』と『ブ

- ックプレゼン』の実践を通して-」日本学校教育学会・第39回研究大会（愛知東邦大学），2025年7月27日。
- 8）明比宏樹（2025）「公立小学校を対象とした地域の詩歌文集における男女の採択数の差に関する調査研究」全国大学国語教育学会・第143回三重大会（三重大学），2025年6月28日。
- 9）明比宏樹・渡邊和志・吉崎静夫・八木健（2025）「一人一台端末を活用した教師のリフレクション（3）」日本教育工学会・2025年春季全国大会（成城大学），2025年3月8日。
- 10）渡邊和志・吉崎静夫・明比宏樹・八木健（2025）「一人一台端末を活用した教師のリフレクション（2）」日本教育工学会・2025年春季全国大会（成城大学），2025年3月8日。
- 11）吉崎静夫・渡邊和志・明比宏樹・三宅貴久子・鈴木慶樹（2025）「一人一台端末を活用した教師のリフレクション（1）」日本教育工学会・2025年春季全国大会（成城大学），2025年3月8日。
- 12）明比宏樹（2024）「テスト後における学習内容のさらなる定着を図るための指導実践 -セルフクチャーとしての機能を包含した『訂正ノート』の在り方に着目して-」中国四国教育学会・第76回大会（岡山大学），2024年11月24日。
- 13）明比宏樹（2024）「『ICT×学級会』思考ツールを用いた話し合い活動の可能性 -「意見の見える化」と「視点の焦点化」を通じたマークの原理からの脱却に着目して-」日本基礎教育学会・2024年度第1回月例会（オンライン），2024年10月15日。
- 14）明比宏樹・渡邊和志・吉崎静夫（2024）「一人一台端末を活用した子どものリフレクション（5）」日本教育工学会・2024年春季全国大会（熊本大学），2024年3月2日。
- 15）渡邊和志・吉崎静夫・明比宏樹（2024）「一人一台端末を活用した子どものリフレクション（4）」日本教育工学会・2024年春季全国大会（熊本大学），2024年3月2日。
- 16）吉崎静夫・渡邊和志・明比宏樹（2024）「一人一台端末を活用した子どものリフレクション（3）」日本教育工学会・2024年春季全国大会（熊本大学），2024年3月2日。
- 17）明比宏樹（2022）「児童が主体的に読み、考えを広げ、まとめる力を育む指導の在り方 -伝記『伊能忠敬』におけるICEモデルを基軸とした授業実践を通して-」全国大学国語教育学会・第143回千葉大会（千葉大学），2022年10月15日。
- 18）明比宏樹（2021）「子どもたちの手で創り上げる『学級・学校物語』の実践 -『学級力向上プロジェクト』を中核とした学級経営を通して-」令和3年度日本教職大学院協会研究大会（愛媛大学），2021年12月12日。
- 19）明比宏樹（2021）「学級力アンケートとレーダーチャートはこう使う」公益財団法人理想教育財団 学級力向上プロジェクトオンラインフォーラム「子どもたち主体の新しい学級づくり」（オンライン），2021年11月13日。

著書

- 1）「初等教育実習の手引き（2026-2027年度版）」立命館大学産業社会学部初等教職課程運営委員会（担当：編者），立命館大学産業社会学部小学校教員養成課程，2025年9月。
- 2）「『書けない』から『あっ書けた！』へ子どもが変わるはがき新聞のすすめ」監修：田中博之，森山卓郎 編著：今宮信吾，蛭谷みさ，彦田泰輔（担当：分担執筆，範囲：pp.58-61），ミズノ兔ブックス，2024年2月。
- 3）「今治のくらし - 3・4年生社会科学習のてびき-」今治市教育研究所，（担当：分担執筆，範囲：pp.3-20），今治市教育委員会，2021年4月。